

事例

私立幼稚園・保育園との合同研修

— 和泉市立光明台南小学校 —

1. 実践の概要

(1) 学校の様子

光明台南小学校は、和泉市の北部にある泉北高速鉄道沿線に開発された住宅地の一角にある。現在の児童数は約400人全学年2～3クラス程度の規模の学校である。昭和60年の1031人をピークに減少傾向にあったが、周辺部の開発により最近やや増加している。



(2) 教員連携

① 子ども理解のための合同研修会

和泉市立光明台南小学校は、校区に公立幼稚園や保育所はないが、向かいにある私立幼稚園や近くの民間保育園と積極的に幼保小連携を進めている。行事の都合で日程調整が難しいが、異年齢交流を積極的に行う一方、教員同士の交流も意欲的に実施している。

最初の3校園連携担当者会議では、まず子どもたちの実態を把握するための情報交換を行った。そこで、LD、ADHD児や高機能自閉症児といった配慮を要する子どもの理解と支援に関することが共通の話題になった。

2回目の会議では、それぞれが一番関心のある事を中心に交流していく事を決め、前述の配慮を要する子どもたちに関して、まず専門家の講義を聴き、意見交流する合同研修会を実施した。

この研修後、保育士から小学校へ、年少児として在園する自閉症児について個別の相談があり、保護者を交えて話し合う機会をもつことができた。

その後も「ケースカンファレンス」が継続され、小学校から専門的なアドバイスをしたり、今後の連携の仕方について話し合ったりした。このような会議の成果として、今までの「引き継ぎ」は、「給食を食べるのが遅いです」程度の形式的なものに終わりがちだったが、今では子どもへの細かな配慮点や保護者対応など細かな点にいたるまで話し合えるようになった。



このように「障害のある子どもたちの理解」など互いに共通する課題について合同研修したり、具体的なケース会議を実施したりすることによって、子どもの発達の連続性を再確認することができ、互いの保育・教育を理解しあうことができた。



(3) 子どもの交流

① 5年生による児童の主体性を重視した幼・保との交流活動

- 総合的な学習の時間を活用し、年間を通して追求しようとするテーマに基づき、児童自らが企画した主体的な交流活動を実施する。
テーマ「いのち」「いたわり」など



② 1年生の思いを生かした幼・保との交流活動 「ミニオリンピック」「わくわくおもちゃランド」

- 学期に1回程度、1年生の生活科を中心とした学習活動に幼児を招待し交流を促進する。
- 幼稚園の運動会に学年として参加するなど、幼稚園や保育所を訪問し、幼児との交流を促進する。
- 入学式において、祝福の意味を込めて新2年生が企画した「ようこそ小学校へ」のアトラクションを行う。



③ 「学校行事としての新1年生体験入学会の実施」と「各種学校行事への招待」

- 学校行事である体育大会、校内音楽会等に幼児や教職員を招待する。
- 3学期に小学校で体験入学会を実施して、小学校教員が5コマ程度の体験授業を行う。
- 幼保の年長組幼児が合同でグループを編成し授業体験に臨む。
- 5年生が企画に参加し、学校の施設の案内・誘導と体験授業の補助を担当する。

(4) 子育て講演会

私立幼稚園や私立保育所と連携しながら、それぞれ「子育て講演会」を実施した。その際、講師の資料をもとに、入学前の親の心構えなど保護者とともを考える機会を持つことができた。

2. 連携のポイント

- 各校園の具体的な共通課題を集約して教員連携・合同研修を実施した。
- 行事を調整して私立幼稚園や保育所とも積極的に異年齢交流を継続した成果として、子どもたちに「他者への思いやり」の心や自尊感情が育ってきている。
- 授業時数の確保が難しい中、異年齢交流を学習の一環として位置づけ、効果的な交流を継続的に進めていくための工夫をしている。

資料

子育て講演会 子育て講演会 資料

健やかな成長のために(自己診断しませんか！)
振り返って、またここから、今から！

家庭教育のポイント	保護者			子ども		
	○	△	×	○	△	×
人の話がきちんと聞ける						
返事や挨拶は大きな声で						
起床・就寝時刻の習慣化						
無理な願いやわがままはきちんと諭す						
机の上や身のまわりの整理整頓ができる						
あとかたづけがきちんとできる						
家族いっしょの食事を大切に作る						
他を思いやる心の貴さや美しさを教える						
がまんの必要性を教える						
よいことをした時はほめ、悪いことをした時はきりげなく叱る						
子どもとの約束は努めて守り、実行する						
子どもの話はよく聞く						
絵本の読み聞かせや童話などのお話をしたりするように努める						
友だちとの関係						
弱いものいじめは恥ずかしいこと、醜いことを教え込む						
仲間はずれにせず、みんなで遊ぶようにする						
一人遊びだけでなく友だちと遊ぶようにする						
自然の中ででのびのびと遊ぶことをすすめる						
友だちとの喧嘩では保護者は正しい判断をする						

※保護者欄は、保護者ご自身がポイントごとにつけをしている度合いを振り返ってみてください。
※子ども欄は、保護者から見た子どもさんのポイントごとの今の様子を診断してみてください。

あたりまえのことが、あたりまえにできる子に